

女子短大生の実態とその教育

綾 哲 一

一、研究の目的

女子短大生が心に描いている理想の男性像、結婚、就職、思想、趣味、友人との話題などを調査し、その実態を把握して、これに応じた教育法を考える。

二、研究の方法

私の担当している女子短大生を主とした四六〇名に、別紙のような質問紙を配布して、回答させ、これを学科別、学年別に統計して大体の傾向を把握し、青年期女子の教育について考える。

この質問紙は昭和四四年二月に回答を得たので、一年生は二年に進級する前の一九才、二年生は卒業直前の二〇才が多かった。

被験者は第一表の通りで、一年生二七〇名、二年生一九〇名、計四六〇名であり、家庭の職業は第二表、宗教は第三表が示している。家庭は概ね中流以上で、職業は公務員が最も多く一五〇名で、農業の八三名がこれについて第二位を占めているところに地方的な特色がある。この外、会社員六〇名、教員二七名、公社員四名、団体職員四名、国鉄三名、銀行員三名があり、これらを公務員にあわせると、二五一名がサラリーマンということになる。かくして当短大の父兄はサラリーマンと農業がその大部分を占めているのである。

女子短大生の実態		科	年生	年令	才
一、理想の男性					
2 1	左記の項目につき、その下に、あなたの希望する事項を記入し、次にこれらの項目の上にあなただけの重要と思う順序に番号を書いて下さい。				
身体 (健康)	身長	c m 位	体重	k g 位	
容貌容姿	職業	月収	学歴	性格	
家柄	家族と同居	別居 (二人だけの家庭)	どちらでもよい		
宗教 (該当に○印をつけて下さい。以下同じ)	思想	頭脳	その他		
二、結婚について					
1	何才位で結婚したいか	2	年令差は	3	(A) 媒酌結婚
(B) 恋愛結婚	(C) どちらでもよい	している	(該当に○)		
三、異性との交際	交際している人は	(A) 学生	(B) 社会人 (サラリーマン・農・工・商・その他)		
四、就職について					
五、趣味 (三つ以内)	第一希望	第二希望	第三希望		
六、愛唱歌 (五つ以内)	あなたは (A) 保守型	(B) 革新型 (社会党型)	民社型	共産型	
七、思想	あなたは (A) 保守型	(B) 革新型 (社会党型)	民社型	共産型	
八、家族の父は (A) 保守型	(B) 革新型 (1 社会 2 民社 3 共産 4 公明 5 他)	(A) 日共系	(B) 反日共型		
九、家庭の職業	母は (A)	兄は (A)	姉は (A)		
一〇、家庭の宗教 (何宗と書く)	(B) (B) (B)	1 1 1	2 2 2	3 3 3	4 4 4
一一、友達との会話 (多い順に番号をつけて下さい)	勉強について	芸能人について	学園や先生について	クラブ活動について	ラジオについて
異性について	家庭や家族について	雑談について	結婚について	その他	

家庭の宗教は仏教が大部分で、浄土真宗一三七、宗派を書かずに仏教と答えたもの六四、真言宗二六、禅宗二三、日蓮宗一六、計二六六名で、回答者三六一名の七四％にあたっている。他に無宗教三八と、回答しなかったもの九九名がいる。無回答者は、自家の宗教を知らないか、または信仰がないものと思われるので、両者をあわせて一三七名、被験者全体四六〇名の三〇％は信仰らしい信仰をもっていない家庭と推定できる。この外、神道四四名と成長の家、キリスト教、金光教、天理教、カトリック教などがあり、神道を除けば何れも熱心な信者であるが、その数は少い。

第1表 被験者

科	保育科	初等教育科	国立科	計
学年				
1年	139	87	44	270名
2年	103	62	25	190名
計	242	149	69	460名

第2表 家庭の職業

科・学年	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
職業							
公務員	48	27	35	14	18	8	150
農業	22	24	13	10	10	4	83
会社員	15	17	12	5	3	8	60
商業	21	8	9	8	2	2	50
教員	8	5	6	6	2	—	27
サービス業	2	—	2	4	1	2	11
無職業	1	4	4	—	1	1	11
工業	—	3	2	—	2	—	7
土建業	2	2	—	2	—	—	6
僧侶	2	1	1	1	—	—	5
木材、製材	3	—	—	2	—	—	5
林業	1	—	2	1	—	—	4
社員	3	—	—	1	—	—	4
団体職員	3	—	—	1	—	—	4
医師	—	—	2	1	—	—	3
国鉄職員	—	1	2	—	—	—	3
銀行員	—	3	—	—	—	—	3
保育士	—	2	—	1	—	—	3
建築士	—	1	1	—	—	—	2
技術者	—	1	—	—	1	—	2
貸家、貸間	1	1	—	—	—	—	2
その他	4	7	1	1	1	—	14
計	136	107	92	58	41	25	459

第3表 家庭の宗教

科・学年	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
宗教							
浄土真宗	47	42	22	9	5	12	137
仏教	15	8	21	13	7	—	64
神道	13	8	5	9	8	1	44
無宗教	13	—	6	7	8	4	38
真言宗	2	14	5	1	3	1	26
真言宗	8	5	3	3	1	3	23
日蓮宗	8	2	1	2	2	1	16
成長の家	1	3	—	—	—	—	4
キリスト教	3	—	—	—	—	—	3
金光教	—	1	—	—	—	1	2
天理教	1	1	—	—	—	—	2
カッパ	—	—	1	—	—	—	1
計	111	85	64	44	34	23	361

三、主なる結果

(一) 理想の男性

理想の男性としては一二の条件をあげ、これを重要さの順に列べさせたもので、その結果は第四表の通りである。これによると、各科により、また学年によって多少の相違はあるが、大体においてよく一致し第一位性格、第二位身体は全科全学年が完全に一致している。職業三位、月収の四位は一応うなづけるが、頭脳よりも学歴を重んじ、容貌容姿を軽くみるところは男子の女性観と大いに異っている。家庭、家

第5表 性格 理想の男性 その1

性格	科・学年		保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
			1	2	1	2	1	2	
明		朗	67	66	30	26	18	5	212
やさ		しい	31	39	25	6	3	6	110
誠		実	10	18	15	18	5	1	67
寛大		おおらか	7	13	11	3	25	4	63
男性		的	11	12	18	7	3	1	52
頼り		なる	22	15	10	—	—	—	47
ユ一		モア	13	7	15	5	5	1	46
おも		いや	7	11	11	8	—	2	39
指導		力	4	16	6	2	2	5	35
温和		厚	5	19	2	4	—	2	32
包容		力	9	5	1	1	—	—	16
さつぱり		している	—	10	1	—	1	—	12
理解		解	5	4	2	—	1	—	12
仕事に全力		をつくす	2	5	2	2	—	—	11
社交		性	5	2	—	2	—	—	9
スポーツマン		ン	3	—	1	4	—	1	9
こだわ		ぬき	—	6	2	—	—	—	8
おち		つ	—	6	2	—	—	—	8
責任		感	—	3	2	1	1	—	7
真面		目	—	3	1	—	3	—	7
活		発	—	7	—	—	—	—	7
信念をもっている			3	—	1	—	1	1	6
協調		性	—	4	1	—	—	—	5
情熱のある		人	2	3	—	—	—	—	5
清		潔	3	—	2	—	—	—	5
神経質でない		的	—	—	2	3	—	—	5
積極的		いい	—	1	3	—	—	—	4
視野が広い		人	—	2	1	—	—	—	3
短気		い	—	3	—	—	—	—	3
面		人	—	2	—	1	—	—	3
暖		人	—	1	—	—	—	2	3
素意		直	2	—	—	—	1	—	3
人		固	—	—	—	—	2	1	3
はつきりした		人	—	—	—	1	1	1	3
忍耐力		人	3	—	—	—	—	—	3
信頼		家	3	—	—	—	—	—	3
努		切	—	—	3	—	—	—	3
親		か	2	—	1	—	—	—	3
お		他	—	—	3	—	—	—	3
そ			17	7	28	4	9	10	75

第4表 現慧の男性としての条件
重要さの順位

科・学年	男性の条件	性	身	職	学	頭	容	家	家	宗	その他		
		格	体	業	収	歴	貌	庭	柄	教			
保育1年		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
保育2		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
初教1		1	2	3	4	5	8	7	6	9	10	11	12
初教2		1	2	3	4	5	6	7	8	10	9	11	12
国文1		1	2	5	3	4	6	7	9	8	10	11	12
国文2		1	2	3	4	6	5	10	8	7	10	11	12
平均順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

柄、宗教を重視しないのは近代人に共通のことであるが、思想を比較的軽視しているのは、思想の柔軟性と年令や環境による変化性を考慮に入れているものと思われるし、他面において自分の思想がまだ固まっている素朴さにもよるのであろう。以下順を追ってその詳細を明らかにしよう。

性格を第一位においたのは、家庭生活の円満を期待し、生涯協調していく上に性格が最も大切であると思っただけであらう。これについては実に一〇六項目の特性をあげているが、そのうち三名以上があげた特性をまとめると、第五表のようになる。第一の明朗は、かの女たちの最も望むところで、全学生の半数近くがまずこれをあげている。男子がはじめしていることは家庭を暗くするからである。次にやさしい、誠実、寛大、おおらか、と続くのは、女性のみならず、何を何よりも嫌っているからである。がみがみ、かみつめる夫は、女性の心理を知らぬ可愛そうな男である。叱ったり、かみつけた罰いは形をかえて自分にかえってくるのが普通である。それは家庭の平和を乱すだけであらう。

第7表 体重 理想の男性 その3

科・学年	50kg 以上	55kg 以上	60kg 以上	65kg 以上	70kg 以上	75kg 以上	人数	平均
保育1年	1	11	57	42	15	0	126	62.3kg
保育2	0	7	55	35	13	1	111	62.5
初教1	0	10	39	21	11	1	82	62.2
初教2	2	6	22	21	7	1	59	62.4
国文1	1	3	21	14	2	0	41	61.6
国文2	0	2	10	10	2	1	25	63.0
計	4	39	204	143	50	4	444	62.3kg

第6表 身長 理想の男性 その2

科・学年	160 cm 以上	165 cm 以上	170 cm 以上	175 cm 以上	180 cm 以上	人数	平均
保育1年	2	10	78	36	4	130	171.2cm
保育2	5	15	56	31	1	108	170.4
初教1	1	12	51	22	1	87	170.7
初教2	1	5	34	21	0	61	171.1
国文1	1	5	24	10	1	41	170.6
国文2	0	1	16	5	3	25	172.2
計	10	48	256	125	10	452	170.9cm

第8表 職業 理想の男性 その4

職業	科・学年	保育 1	保育 2	初教 1	初教 2	国文 1	国文 2	計
技 術 者		35	33	15	9	10	—	102
サラリーマン		33	17	26	9	7	—	92
公務員		20	28	13	16	2	8	87
教育者		8	8	10	7	—	—	33
実業家		16	3	6	5	1	—	31
何でもよい		5	5	1	7	6	—	24
医師		6	4	1	2	3	—	16
生活の安定している人		—	3	6	—	6	—	15
収入の安定している人		—	8	—	—	3	—	11
農業		2	2	—	—	1	4	9
会社員		—	1	—	—	—	8	9
商社		4	2	—	—	—	2	8
土建		—	1	5	—	—	—	6
銀行		2	2	1	—	—	—	5
職業と生甲斐		—	—	5	—	—	—	5
芸術家		1	—	1	1	2	—	5
警察官		—	5	—	—	—	—	5
サラリーマン以外		3	1	—	—	—	—	4
設計		1	2	—	—	—	—	3
自己の職業にうちこむ		—	3	—	—	—	—	3
自由業者		—	1	1	—	1	—	3
パイロット		2	—	1	—	—	—	3
科学者		—	—	1	1	1	—	3
好きでしている職業		3	—	—	—	—	—	3
サーブیس		—	—	—	—	—	2	2
専門職		—	1	—	1	—	—	2
福祉関係		1	1	—	—	—	—	2
ジャーナリスト		1	—	1	—	—	—	2
園芸		—	—	1	1	—	—	2
外交官		2	—	—	—	—	—	2
その他		2	4	6	—	1	1	14
計		147	135	101	59	44	25	511

さらに男性的で、頼りになることが必要である。要するに「気はやさしくて力もち」というのが現代女性の理想である。しかも、ユーモアがあつて、おもいやりがあり、妻をぐんぐん引っぱって行くだけの指導力をもち、温厚で、包容力があれば申分ないであろう。以

下九六の特性も一々とりあげて考えると、一つとして必要でないものはないが、そのように揃った男子、できあがった男は現実には存在しない。したがって包容力以下の特性は急に頻数がおちている。

第二位の身体については、まず健康であることはいうまでもないが最近の女性は体格を重視し、特に身長を気にするようになった。第六表は理想の男性の身長、第七表は体重を示している。女子大生は理想の男性として身長は一六〇cm以上、一八〇cmぐらいまで、平均一七〇・九cmを望み、頻数は一七〇cm以上というのが最も多く、二五六名で過半数を占めている。体重については、身長ほど気にしないが、最低五〇kg以上、最高七〇kgまでを希望し、平均は六二・三kgで、頻数の

第9表 月収 理想の想性 その5

科・学年 月収	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
2 万 円 以 上	—	—	1	1	—	—	2
2.5 〃	1	—	1	—	—	—	2
3.0 〃	23	27	16	12	7	3	88
3.5 〃	5	10	5	8	—	—	28
4.0 〃	36	25	33	12	10	6	122
4.5 〃	5	14	1	1	—	—	21
5.0 〃	41	18	20	14	14	—	107
5.5 〃	—	3	1	—	—	5	9
6.0 〃	2	—	—	2	—	—	4
7.0 〃	4	—	—	—	2	—	6
10.0 万 円 以 上	5	—	—	—	2	2	9
小 計	122名	97	78	50	35	16	398名
以 上 平 均	4.29万	4.08万	4.25万	4.01万	4.95万	5.37万	4.41万円
そ の 他							
人 な み 普 通 の 収 入	4	—	1	4	1	—	10
生 活 で き る 程 度	—	8	3	—	1	3	15
多 い ほ ど よ い	—	3	—	—	4	4	11
関 係 な し	—	1	1	—	1	—	3
余 裕 あ る 生 活	8	3	3	—	—	—	14
余 暇 を 楽 し め る 程 度	—	1	—	—	—	—	1
共 稼 せ ん 程 度	—	1	—	—	—	—	1
小 計	12	17	8	4	7	7	55
総 人 員	134	114	86	54	42	23	453

最も多いのは六〇kg以上で二〇四名である。
 第三位の職業は三二種にわたっており、技術者を望むものが最も多く一〇二名、次はサラリーマンの九二名、公務員八七名、教育者三三名、実業家三一名とつづき、職業は何でもよいというのが二四名で、以下は急に頻数が減少している。詳細は第八表の通りで、要するに、余暇を楽しむ時間的、経済的余裕のある職業を望んでいるようである。

る。本表で総計が被験者数を上まわったのは、第二志望を第一志望と対等に書いてあるものを特に若干加えたからである。
 第四位の月収については、最低二万円以上から最高一〇万円以上に及び、平均は四・四一万円となっている。二万円以上二名と二・五万円以上の二名が、初等教育科と保育科にあるのは、何れも共稼を覚悟しているものと思われる。しかし平均が四・四一万円になったのを見ると、一般には共稼をあまり希望していないことがわかる。この他、余裕ある生活とか、人なみ普通の収入とか、生活できる程度など、抽象的な回答と、

第10表 学歴 理想の男性 その6

科・学年 学歴	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
大 学 卒	82	55	68	33	21	10	269
高校卒以上	32	34	25	18	6	7	122
学歴は関係なし	15	6	6	4	2	3	36
短大卒以上	4	9	2	2	9	3	29
大学院卒	3	—	—	—	—	—	3
実力次第	—	—	—	—	2	1	3
本人の学歴	—	2	—	—	—	—	2
普通の学歴	—	2	—	—	—	—	2
自分より上	—	—	1	—	—	—	1
教養と常識	—	—	1	—	—	—	1
社会でやっ	—	—	—	—	1	—	1
ていける	—	—	—	—	1	—	1
職業に適應	—	—	—	—	1	—	1
計	136	108	103	57	42	24	470

通の収入とか、生活できる程度など、抽象的な回答と、

第11表 頭脳 理想の男性 その7

科・学年 頭 脳	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
普 通 以 上	51	—	3	12	1	5	72
普 通	25	5	14	19	1	3	67
頭 脳 明 晰	—	3	9	—	22	10	44
自 分 より 上	4	6	1	4	1	2	18
関 係 な し	3	4	8	—	—	—	15
良 い 方 が よ い	—	11	3	—	1	—	15
優	7	2	1	—	—	—	10
数学にすぐれた人	—	2	1	—	—	1	4
常識のある人	—	—	3	—	—	—	4
妻をリードする	—	—	—	—	1	—	3
頭 脳 分 以 下	1	—	—	—	—	—	1
自 分 について頭が	—	—	—	—	1	—	1
よ い 分 と 同 程 度	—	1	—	—	—	—	1
機 転 が き く	—	1	—	—	—	—	1
理 工 系 の 人	—	1	—	—	—	—	1
異 常 者 で な い	—	1	—	—	—	—	1
頭 が よ く て お だ	—	1	—	—	—	—	1
計	91	39	43	35	28	23	259

答もあり、多いほどよいという欲ばりもあれば、収入は関係ない、という精神主義者も若干いる。

第五位の学歴については、大学卒を望むものが二六九名、第一位で過半数を占め、高校卒以上が一二二名でこれに次ぎ、学歴を問題にしないものが三六名で第三位を占めている。短大卒は、男子にとって、やはり中途半端になるので、これを望む女性は一九名に過ぎない。以下大学院卒、人物本位、自学、などはきわめて少い。今日、同年令人

第12表 容貌容姿 理想の男性 その8

科・学年 容 貌 容 姿	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
普 通 人 な み	93	65	40	39	21	3	261
関係ない、こだわ	5	9	12	5	—	8	39
男 ら し い 人	7	1	2	3	6	—	19
良 い 方 が よ い	1	3	4	—	5	1	14
清 潔 な 感 じ	—	—	5	1	3	2	11
やせ型でスマート	6	—	2	1	1	1	11
好 男 子	3	—	3	1	2	—	9
感 じ が よ い 人	—	—	3	—	3	1	7
五 体 満 足 不 具 で	1	4	—	—	—	—	5
背 が 高 い し	—	—	3	—	1	—	4
眼 鏡 な し	3	—	—	—	—	—	3
普 通 以 上	—	—	2	—	1	—	3
筋 肉 質	—	—	—	—	2	1	3
健 康 な ら ば よ い	1	1	—	—	—	—	2
そ の 他	—	5	2	—	3	4	14
計	120	88	78	50	48	21	405

口の二〇%以上が大学に進学する時代になっては、中流以上の家庭の出身である限り、一応大学卒を望むのは当然で、必ずしも理想が高過ぎるとはいえないであろう。詳細は第一〇表の通りである。

第六位の頭脳については第一一表のように、回答者が少く、学歴よりも関心が薄いことを示している。普通以上七二名、普通六七名が一二位を占め、頭脳明析、自分より上、がこれに次ぎ、関係なし、とするものも一五名ある。大学卒の学歴を志望しながら頭脳についてあま

第13表 家庭 理想の男性 その9

科・学年	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
別居同居							
家族と別居	66	36	43	23	23	12	203
どちらでもよい	33	44	39	33	17	12	178
家族と同居	6	4	11	3	2	1	27
計	105	84	93	59	42	25	408

第14表 思想 理想の男性 その10

科・学年	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
思想							
保守	21	8	19	3	1	6	58
健康	20	6	5	7	5	1	44
問題にせぬ	10	—	19	5	6	3	43
ぬ、こたわらぬ	7	7	1	4	4	—	23
自社会党	8	—	6	1	2	1	18
確信のある人	4	3	—	2	—	—	9
共産党以外	—	2	—	6	—	—	8
民主的な人	—	2	2	1	—	—	5
思想健全	—	—	1	—	1	2	4
共産、公明以外	—	—	1	—	3	—	4
無党派	—	2	1	—	—	—	3
こたえがたぬ	—	3	—	—	—	—	3
自分と全じ思想	—	1	—	—	1	1	3
民社党	—	—	1	—	—	—	1
共産党か	—	—	—	—	1	—	1
他人に迷惑を	—	—	—	—	1	—	1
人類的愛	—	—	1	—	—	—	1
人生を考える人	—	—	—	—	—	1	1
右翼	—	—	1	—	—	—	1
主義者で実行家	—	—	1	—	—	—	1
現実主義	—	—	1	—	—	—	1
理想主義	—	—	1	—	—	—	1
わからない	—	—	—	—	1	—	1
計	70	34	61	29	26	15	235

りきびしくないのは、実質よりも形式を重んずる日本の風潮からきているものと思う。しかし時代は学歴よりも能力本位に変化しつつあることは事実である。ただ頭脳明晰なものには、とかく人格に圭角があったり、敏感過ぎたり、時には人を小馬鹿にするようなこともあつて職場や家庭における人間関係がよくない例が少くないので、家庭の円満や平和を願う女性としては、頭脳は普通またはそれ以上であれば一応満足するようである。

第七位の容貌容姿については第一二表の通りで、これまた普通、人

なみを望むものが過半数を占め、関係なし、こたわらぬがこれに次ぎ両者をあわせると、七〇％に近い数になる。この点、男子が女子の容貌容姿を一、二位、少くとも三位以上におくのと、大いに異っている。勿論男らしいとか、良い方がよい、清潔な感じ、などを望むものもあるが、それよりは性格や、健康、体格、職業、月収、学歴などを遙かに重視している。この点で女子は功利主義者であり、現実主義者であり、また実質主義者でもある。しかし美を愛するのは人間の情であり、特に女子は美を好むので、かの女たちのいう普通とか、人なみの程度は案外高いのかも知れない。

第八位の家庭については第一三表の通りで家族との別居を望むものが二〇三名、同居を望むものは二七名に過ぎず、どちらでもよい、というのが一七八名あるこれはまだ家族と同居の苦勞を知らないからで、一度同居を経験すれば、忽ち別居を希望するものと思われ。第九位の思想については、第一四表の通りで、無記入者が多いが記入されたものは比較

第15表 家柄 理想の男性 その11

科・学年 家 柄	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
普通, または中流	57	29	35	31	18	2	172
関係なし	48	43	35	13	12	13	164
自家と同程度	7	2	4	3	2	—	18
明るく円満な家庭	4	1	1	8	—	—	14
中の上	—	2	3	3	1	1	10
遺伝病のない家	—	5	—	2	3	—	10
上流	5	2	1	—	—	—	8
良い方がよい	—	4	2	—	2	—	8
しっかりした家庭	—	1	—	—	—	1	2
健康な家庭	—	—	—	—	—	2	2
血統のよい家庭	—	2	—	—	—	—	2
自家より上	—	—	1	—	—	—	1
元士族	—	1	—	—	—	—	1
計	121	72	82	60	38	19	412

第16表 宗教 理想の男性 その12

科・学年 宗 教	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
無関心, こだわらぬ	28	25	27	23	9	4	116
創価学会以外	21	9	16	8	11	—	65
何でもよい	18	6	4	4	11	—	43
仏教	10	6	8	6	1	—	31
真宗	—	—	5	—	1	12	18
キリスト教	9	1	3	2	—	—	15
こり過ぎぬ	—	5	7	—	—	—	12
新興宗教以外	2	5	1	—	3	—	11
日蓮宗	8	—	—	1	—	1	10
かたよらぬ	—	10	—	—	—	—	10
同派の人	—	3	4	—	1	—	8
無宗教	—	—	6	1	—	—	7
真言宗	3	—	—	—	—	1	4
禅宗	—	—	—	—	—	2	2
他人に迷惑かけぬ宗教	—	—	—	—	2	—	2
金光教	—	—	—	—	—	1	1
神道	—	—	—	—	—	1	1
曹洞宗	—	—	—	—	—	1	1
非科学的でない	—	1	—	—	—	—	1
信念のある人	—	1	—	—	—	—	1
カトリック教	—	—	1	—	—	—	1
成長の家	1	—	—	—	—	—	1
計	100	72	82	45	39	23	361

的穩健である。これはすでに述べたように、まだ本人の思想が固まっていないうこと、政治的関心が強くないこと、思想問題の恐しさを知らぬ素朴さや、このようなものは結婚後如何ようにも変化するぐらいいに思っているからであろう。保守五八名、穩健中正四四名、問題にせぬ四三名、こだわらぬ二三名が主軸をなし、革新型のものは社会党一八名、共産党一名だけである。したがって学園紛争も起らないし、教職員との間にも溝はない。しかし、他大学、特に男子学生からの働きかけもあり、多少その気配を見せる学生もあつて、手放しで樂觀できる

状況ではない。
第一〇位の家柄については第一五表の通りで、関心は薄い、記入者は多く、普通または中流が一七二名、関心なし、一六四名で、両者をあわせると八二%を超える。しかし、なかには、自家と同程度、中の上、上流、良い方がよいなどもあり、元士族を望むもの一名が特に注目される。何れにしても家柄は、もはや過去の問題になつてしまつたようである。

第一位の宗教については第一六表の通りで、女子大生の関心は最

第17表 結 婚 年 令

科・学年 結婚 年令	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
21才	3	—	2	1	4	—	10
22	18	14	11	6	14	1	64
23	58	70	44	34	23	8	237
24	35	35	28	12	13	18	141
25	33	24	26	17	8	10	118
26	2	4	1	3	5	1	16
27	4	3	2	2	2	3	16
28	—	2	2	—	2	—	6
29	—	—	—	—	2	—	2
30	—	—	2	—	2	—	4
未 定	—	—	—	—	—	1	1

第18表 結婚において希望する年令差

科, 学年 年令差	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
0才	1	3	5	—	3	2	14
1	6	3	7	3	3	2	24
2	20	9	21	6	9	4	69
3	43	22	46	24	24	8	167
4	32	12	26	21	14	4	109
5	49	22	31	39	18	9	168
6	10	8	10	15	8	2	53
7	11	14	10	9	4	2	50
8	2	2	5	2	2	1	14
9	—	1	4	2	2	1	10
10才以上	2	3	7	3	2	1	18
年 長	—	—	—	1	—	—	1
全 年 以 上	—	—	—	1	—	—	1
こ だ わ ら ぬ	—	—	—	2	—	—	2

第19表 媒酌結婚か恋愛結婚か

科, 学年 結婚 の方法	保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
媒 酌 結 婚	16	14	11	3	3	1	48
恋 愛 結 婚	55	30	41	24	9	5	164
ど ち ら で も	63	64	39	34	30	14	224
計	134	108	91	61	42	20	456

も薄く、無関心、こだわらぬ、が一六名で主位を占め、創価学会以外というのが六五名で二位となっているのは、創価学会信者たちの執拗な折伏によほど困っているものと思われる。仏教を希望するものは三一名であるが、他に真宗一八、日蓮宗一〇、真言宗四、禅宗二、曹洞宗一があり、総計すると、六六名となつて、かなりの勢力である。しかし、宗教は何でもよいというのが四三名、他に、こり過ぎぬ一二、かたよらぬ一〇、他人に迷惑をかけぬ二、非科学的でない一があり、これらをあわせると六八名になる。これに創価学会以外、の六五名をあわせると、一三三名となり、一般に熱心な信仰がなく、創価学会な

どのように、こりかたまることを好まないようである。
第一二位の「その他」については特記するほどのものはない。
(二) 結婚について
結婚については、まず何才ぐらいで結婚したいか、を問い、次に男女の年令差をきき、第三に、媒酌結婚か、恋愛結婚かをたずねた。結果は第一七表、第一八表、第一九表の通りである。
結婚年令については、二三才を希望するものが最も多く二三七名、次が二四才で一四一名、三位は二五才の一八名、四位は二六才の六四名で、その他の年令では急に希望者が減少している。短期大学は大

第20表 異性との交際

異性との交際	科, 学年 保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
交際している	56	46	35	24	7	4	172
交際していない	83	57	52	38	37	21	288
計	139	103	87	62	44	25	460

第21表 交際の相手

交際の相手	科, 学年 保育1	保育2	初教1	初教2	国文1	国文2	計
学 生	39	28	25	16	6	3	117
サラリーマン	9	11	9	7	1	1	38
農 業	1	2	—	—	—	—	3
工業	1	1	—	—	—	—	2
技師	—	2	—	—	—	—	2
商 業	1	—	—	—	—	—	1
その他	5	2	1	1	7	—	9
計	56	46	35	24	7	4	172

多数のものが二〇才で卒業するので、卒業後三年を経過した二三才を希望するのである。そして早きは二年後、遅くなくても五年ぐらいまでの間に結婚したいと思っているようである。本表において回答総数が被験者数を遙かに越えているのは、例えば二三才から二六才までというような回答についてはその間の各年令毎に一を加えたからである。

次に年令差については、五年差を希望するもの一六八名、三年差を望むもの一六七名で、一、二位を占め、四年差一〇九、二年差六九、

六年差五三、七年差五〇名で、他は急に低くなっている。本表においても、回答数が被験者数を越えているのは第一七表と同じような扱いをしたからである。

また媒酌結婚か、恋愛結婚かということについては、媒酌結婚の四八名に対して、恋愛結婚は一六四名で、媒酌結婚の三倍以上になっているが、どちらでもよい、というのが二二四名で、両者を遙かに越えていることは注目し値する。即ち必ずしも恋愛結婚に固執せず、良縁で、よき媒酌人を得れば喜んでこれに応ずることを示している。

(三) 異性との交際

異性との交際については第二〇表の通りで、四六〇名中一七二名が交際しており、それは被験者の三七％にあたっている。交際の相手は第二一表のように、学生が最も多く、一一七名（交際しているもの六七・七％）で、サラリーマン三八名（二二％）がこれに次ぎ、他はきわめて僅かである。交際といっても深い関係はなく、小中学校または高校時代の友だちや、アルバイト先で知りあったものが多く、問題はまだ起していない。しかし、遠くて近きは男女の仲であるから、男子学生や一般男子が本学または寮を訪れて学生に面会をもとめる場合については、厳重な規定を設けて監督しており、電話には、事務員または寮母が出て、用件をたずねて本人に伝え、決して学生と直接連絡がとれないようにしている。

(四) 就職について

就職については、各科により非常に異なっているので、第一志望から第三志望までを書かせて、これを科別にして一覧表にまとめた。第二二表は保育科、第二三表は初等教育科、第二四表は国文科の就職希望

第23表 就職について 初等教育科

科, 学年 志望の職業	初等教育科 1 年			初等教育科 2 年		
志望別	第1志望	第2志望	第3志望	第1志望	第2志望	第3志望
小学校教諭	33	20	2	23	3	—
幼稚園教諭	32	20	5	17	16	1
公務員	5	7	2	3	—	1
事務員	3	8	2	3	7	4
会社員	3	6	2	4	4	13
自営業者	2	—	1	—	—	—
婦人記者	1	—	—	—	—	—
デザイナ	1	—	—	—	—	—
施設	—	1	—	—	3	—
銀行	1	—	2	—	1	2
商業	1	1	—	—	1	1
中学校教師	—	—	—	—	—	1
農業	—	—	—	—	—	1
音楽関係	—	—	—	—	—	1
保育所	—	3	1	—	—	—
学校事務員	—	1	—	—	—	—
福祉関係	—	—	1	—	—	—
看護婦	—	—	1	—	—	—
バスガイド	—	—	1	—	—	—
ステュアデス	—	—	1	—	—	—
自動車関係	—	—	1	—	—	—
結婚	—	—	1	—	—	—
計	82	67	23	50	35	25

第22表 就職について 保育科

科, 学年 志望の職業	保育科 1 年			保育科 2 年		
志望別	第1志望	第2志望	第3志望	第1志望	第2志望	第3志望
保育所保育母	36	60	12	68	31	4
幼稚園教諭	63	30	15	30	15	5
施設保育母	17	6	17	6	4	6
社会社員	7	4	16	—	2	7
事務員	4	1	3	2	—	8
公務員	4	4	3	1	2	1
栄養士	—	—	—	2	2	—
音楽関係	1	1	—	1	—	—
銀行	—	—	—	1	—	—
出版	—	—	—	—	—	—
児童福祉	—	—	—	—	1	—
サービス	—	3	1	—	2	1
農業	—	1	—	—	1	—
新聞社	—	—	—	—	1	1
カウンセラー	—	—	—	—	1	—
教師	—	—	—	—	—	1
婦人指導者	1	1	—	—	—	—
理容士	1	—	—	—	—	—
ジャーナリスト	1	—	—	—	—	—
カメラマン	—	—	1	—	—	—
自由業	—	—	1	—	—	—
結婚	—	—	—	1	—	—
小学校勤務	—	1	—	—	—	—
中学校勤務	—	1	—	—	—	—
中・高・大・短大・専門学校勤務	—	—	—	—	—	1
計	135	114	69	113	62	35

表である。これによると、ほとんど全員が就職を希望しており、家庭にとどまる若干のものも第二志望として就職を希望している。

第二表の保育科は、幼稚園二級普通免許状と保育所及び施設などの保育の資格が与えられるので、保育所の保育母と、幼稚園教諭を希望するものが最も多く、施設保育母がこれに次いでいる。一年生は幼稚園の希望者が保育所希望者の二倍近くで六三名あるのに対し、二年生は逆に保育所を希望する者が幼稚園希望者の二倍を越え、六八名で、施設希望者は一年生の三分の一の六名に過ぎない。これは県内の幼稚園が、ほとんど私立で俸給が非常に低いのに対して、保育所は公立が多く、私立でも厚生省の規程によって待遇がよいことを二年生はよく知っているが、一年生はまだそれを知らないで、可愛らしい子供が多くて幼児を指導する時間の短い幼稚園を選ぶのである。施設についても、二年生は既に施設実習を終っているので希望者が少く、一年生はそれを知らないので、人道的立場と、女子特有の不幸な人に対する同情心から志望者が多いのであろう。他に会社員、事務員などを希望するものもあるが、その数は少く、しかも第二または第三志望にしているものが多い。

第25表 趣味

科, 学年 趣味	保育		初教		国文		計
	1	2	1	2	1	2	
手芸, 編物, 裁縫	52	38	22	18	10	6	146
音楽鑑賞	36	28	19	11	5	9	108
旅行, ドライブ	16	12	22	9	3	1	63
スポーツ	21	5	6	21	3	—	56
読書	—	21	—	—	15	7	43
器楽演奏, 歌唱	21	—	7	8	1	1	38
絵画	13	3	6	5	5	1	33
調理芸	6	11	4	6	—	2	29
園芸	8	—	8	1	3	5	25
華道	5	7	2	1	1	1	17
切手蒐集	9	—	4	2	1	1	17
映画鑑賞	10	4	—	—	1	2	17
書道	1	6	3	2	3	—	15
登山	—	8	1	—	3	—	12
散歩	—	4	3	—	1	2	10
詩作	2	2	3	1	—	2	10
茶道	3	2	—	3	—	1	9
卓球	—	4	2	—	—	1	7
釣魚	—	2	3	—	—	1	6
舞踊	3	2	1	—	—	—	4
工作	2	1	1	—	—	—	6
造形	1	—	—	2	—	—	3
文筆	2	—	—	1	—	—	3
楽譜	—	—	—	—	2	1	3
レコード蒐集	2	—	—	—	—	—	2
動物の世話	—	—	—	—	1	1	2
排球	—	—	—	2	—	—	2
国際記	—	—	—	—	—	2	2
その他	3	3	3	—	4	2	15

第24表 就職について 国文科

科, 学年 志望別 本望 の職業	国文科 1 年			国文科 2 年		
	第1志望	第2志望	第3志望	第1志望	第2志望	第3志望
司書	10	7	1	3	1	1
事務員	8	2	2	3	3	1
中学校教諭	6	5	2	2	2	—
公務員	2	5	1	3	—	—
マスコミ	2	—	1	3	—	—
ジャーナリスト	1	1	1	2	2	—
会社員	2	—	—	—	—	—
雑誌記者	—	1	—	—	—	—
秘書	—	1	—	2	—	1
ステューデント	—	—	—	1	1	—
造園家	—	—	—	1	—	—
家事手配	—	—	—	—	—	—
事務所経営	1	—	—	—	—	—
特殊教育	1	—	—	—	—	—
少年鑑別所	1	—	—	—	—	—
銀行員	1	1	—	—	—	—
自由業	1	—	—	—	—	—
セールスマン	1	1	—	—	—	1
書店員	—	1	1	—	—	—
出版関係	—	1	—	—	—	—
農業関係	—	—	1	—	—	—
観光案内	—	—	1	—	—	—
書道の先生	—	—	1	—	—	—
カメラマン	—	—	—	—	1	—
結婚	—	—	—	—	1	1
どこでもよい	—	—	—	—	1	—
計	37	25	12	21	12	5

次に第二三表の初等教育科は小学校二級普通免許状と、幼稚園二級普通免許状が与えられるので、本来は小学校教諭になりたいのである。しかし最近児童数の減少により、小学校教員の採用が著しく減少し、採用試験も非常にきびしくなったので、幼稚園を希望するものが増加している。なお公務員、事務員、会社員などを志望するものもあるが、その数は二志望、三志望に多く、第一志望には多くない。

また国文科には中学校国語科二級普通免許状と、司書及び司書教諭の資格が与えられるので、本来ならば中学校教諭か、司書または司書教諭になりたいのである。しかし中学校生徒数の減少と、これに伴う教員の過剰並に教員志望者の増加により国語科教員の採用試験は難関中の難関である。せめて司書にでもなりたいというので、司書の希望者が最も多いが、これには県公務員の中級職に合格していなければ採用されないで、この間の事情を知っている二年生には志望者が少い。そこでマスコミやジャーナリストを希望するが、これも採用試験がきびしいので、結局、公務員、事務員、会社員、銀行員などを希望する。国文科の学生はこの方面の採用試験では字がきれいで、文章も相当できるので、一般

第26表 クラブ活動

クラブ活動	科, 学年	保育		初教		国文		計
		1	2	1	2	1	2	
華道	道	8	19	10	7	5	—	49
コテラ	ス	15	5	20	5	—	—	45
茶児	9	2	6	3	5	1	—	26
卓庭	文	8	9	6	1	—	—	24
日赤	球	2	3	9	5	2	—	21
ワッ	団	7	5	6	1	2	—	21
日器	仕	11	—	1	4	1	—	17
書書	ホー	7	1	3	2	2	1	16
園文	ゲル	11	1	1	—	1	—	14
筆文	踊	7	6	—	1	—	—	14
新美	道	3	1	7	—	3	—	14
演演	部	6	1	2	5	—	—	14
沖繩	部	—	4	4	—	3	—	11
謡謡	部	—	1	2	—	5	—	8
山徒	部	1	3	—	2	1	—	7
排排	部	4	—	2	—	1	—	7
放放	部	3	1	1	1	—	—	6
	部	3	2	—	1	—	—	6
	部	2	—	4	—	—	—	6
	部	1	—	2	1	1	—	5
	部	1	2	—	1	—	—	4
	部	—	2	1	—	—	—	3
	部	1	—	1	1	—	—	3
	部	1	—	—	—	1	1	3
計		111	68	88	41	33	3	344

受験者よりも優位にたち、多数採用されているし、また採用後も各方面から多くの讃辭を受け、待遇もよいので、今後は、はじめからこの方面に向うものが一層多くなるであろう。

(五) 趣味

趣味については、まず自己の最も愛好するものを三つ以内書かせ、次に如何なるクラブ活動に参加しているかを調べ、第三に好きな学科と嫌いな学科を調査した。

第一については四四種の趣味が挙げられ、細分すると一〇〇種を越

えるが、そのうち二名以上が挙げたものを頻数の順に列べたのが第二五表である。これによると、手芸、編物、裁縫が一四六名で最も多く音楽鑑賞が一〇八名でこれに次ぎ、流石に女性らしさをよくあらわしている。旅行、ドライブ六三名、スポーツ（これは多分見る方である）五六名は女性の近代化を示し、読書四三名、器楽演奏、歌唱三八、絵画三三、調理二九には学生らしいインテリの匂がするし、園芸二五、華道一八、映画一七、書道一五、茶道九、舞踊四などには伝統的な女性の修業が伺える。

第二のクラブ活動については、第二六表のように、著しく文化部に偏り、運動部が振わないのは、青年期女子の特徴としてやむを得ないことであろう。文化部では、華道四九名、コーラス四五、茶道二六、児童文化二四名が上位四を占め、後は日本舞踊、器楽、書道、園芸、箏曲、新聞、美術、演劇、謡曲、放送部と続き、実に絢爛たるものがあり、昭和四三年度の九州地区大学文化連盟主催の大会には、合唱部、華道、茶道、書道、美術の各部が揃って出品または出場している。別に社会部ともいうべき赤十字青年奉仕団一七名と沖繩研究会六名がある。これに対して運動部は卓球、庭球各二一名、ワンドーフォール一六名、籠球六名はまずよいとして、山岳部四名、徒手体操三、排球三は、ほとんど部の形をなしていないといつてよい。したがって九州地区体育連盟の大会には、毎年籠球部だけが出場し、他の部は一度も出場していない。これでは大選手を出すどころか、国体選手を出すことも困難であろう。

第28表 嫌いな学科

科, 学年		保育 1	保育 2	初教 1	初教 2	国文 1	国文 2	計
嫌いな学科								
英語	31	20	23	7	9	3	93	
数学	11	20	22	15	—	6	74	
化学	34	9	3	1	10	—	57	
音楽	23	10	14	—	—	—	47	
物理	5	5	10	10	—	—	30	
生物	10	1	8	—	—	—	19	
社会	7	—	4	3	2	—	16	
理科	—	5	5	—	2	3	15	
体育	—	1	6	1	3	1	12	
保健衛生	11	—	—	—	—	—	11	
絵画製作	5	2	1	3	—	—	11	
宗教	7	1	2	—	1	—	10	
物理	3	2	1	1	2	—	9	
小児体育	—	9	—	—	—	—	9	
教育学	8	—	—	—	—	—	8	
社会福祉	—	8	—	—	—	—	8	
国文学	2	—	2	3	—	—	7	
家庭語	7	—	—	—	—	—	7	
地理	—	—	5	—	—	—	5	
心理	—	—	—	—	4	—	4	
社会関係	—	2	2	—	—	—	4	
法	2	—	—	1	—	—	3	
礼	1	—	2	—	—	—	3	
その他	3	8	7	—	2	2	22	

第27表 好きな学科

科, 学年		保育 1	保育 2	初教 1	初教 2	国文 1	国文 2	計
好きな学科								
音楽	18	15	14	16	2	1	66	
数学	18	7	12	6	3	1	47	
国文学	3	—	3	20	6	7	39	
絵画製作	22	11	3	1	—	—	37	
英語	12	4	10	2	8	1	37	
心理	6	11	5	1	2	1	26	
社会	4	4	6	6	1	2	23	
体育	10	2	4	—	5	—	21	
歴史	3	2	1	3	7	4	20	
児童心理	14	5	—	—	—	—	19	
生物	7	3	2	1	5	—	18	
精神衛生	—	17	—	—	—	—	17	
保育原理	11	4	—	—	—	—	15	
国語	—	4	7	—	4	—	15	
調理	—	12	—	—	—	—	12	
家庭	1	4	—	4	1	1	11	
地理	—	1	—	6	4	—	11	
法	—	1	2	—	8	—	11	
青年心理	7	1	2	—	—	—	10	
化学	—	8	—	—	—	—	8	
文化	3	3	—	—	2	—	8	
文系	4	1	—	1	—	—	6	
宗教	4	—	—	2	—	—	6	
栄養	—	5	—	—	—	—	5	
生活	—	2	2	1	—	—	5	
社会福祉	—	5	—	—	—	—	5	
社会系	1	2	1	1	—	—	5	
文学	—	—	—	—	2	2	4	
美術	—	—	4	—	—	—	4	
リズム	—	3	—	—	—	—	3	
その他	2	12	2	—	1	1	18	

を好むものも四七名おり、音楽について好きな学科の二位である。英語もこれと同様で、英語を嫌いとするものは九三名で、嫌いな学科の第一位を占めているが、好きなものも三七名おり、絵画製作と並んで好きな学科の四位になっている。また一般に女子は音楽を好むといわれているが、これを好むものは六六名で、好きな学科の第一位であるにもかかわらず、これを嫌いとするものも四七名いて、嫌いの学科の四位を占めていることが注目される。国文学は好きが三九で、嫌いが七、絵画製作は好きが三七で嫌いが一一、心理学は好きが二六で嫌いはなく、社会は好きが二三で嫌いが一六、体育は好きが二一で、嫌いが一二、児童心理は好きが一九で嫌いなし、生

第三の好きな学科と嫌いな学科については第二七表及び第二八表の通りである。これは保育科、初等教育科国文科によって、それぞれ学科が異なるし、これを学習する学年や学期が異なるので、頻数だけを比較して簡単に結論を出すことは慎まねばならないが、これを概観すると、少くとも女子大生が如何なる学科を得意とし、如何なる学科を不得手としているかは、ほぼ見当がつく。一般に女子は数学が不得手であるといわれ、第二八表でも数学を嫌うものが七四名あるが、第二七表によると、数学

第29表 愛 唱 歌

順位	愛 唱 歌	人数	順位	愛 唱 歌	人数
1	若 者 た ち	72名	24	軍 歌	6
2	赤 と ん ぼ	25	25	浜 千 花 鳥	6
3	と も し び	15	26	花 き 天 使	6
4	ポ ピ ャ ラ	15	27	悲 し き ば	5
5	学 生 時 代	13	28	野 し の 実	5
6	忘 れ な 草	12	29	や し の ナイ	5
7	忘 れ な 草をあなたに	12	30	ド ナ ド ナ ド	4
8	お 母 さ ん の 歌	11	31	ロ ー レ 戦	4
9	ふ る さ と	11	32	悲 惨 な 結	4
10	世界は2人のために	10	33	愛 の 結 晶	4
11	黒 い 瞳	10	34	広 い 野 原 一 っ ぱ い	4
12	恋 の 季 節	10	35	ロ シ ア 民 謡	4
13	小 さ な 日 記	9	36	隅 田 川	3
14	童 城 の 月	9	37	森 へ 行 き ま し ょ う	3
15	荒 城 の 砂 漠	8	38	小 さ な 丘 を 見 つ け た の	3
16	月 の だ 貝 の 歌	8	39	知 ら な か っ た の	3
17	友 さ く ら 謡	7	40	年 上 の 女 で	3
18	歌 叱 ら れ シ ャ ン	7	41	川 辺 の ベ ン チ	3
19	思 い 出 の ス カ イ ラ イ ン ム	7	42	山 の ロ ク ソ ン	3
20	シ ャ ロ ム	6	43	フ ォ ー ク の	3
			44	あ ざ み の	3
			45	野 菊 他	3
			46	そ の	203

物理学は好きが一八で嫌いが一九、精神衛生は好きが一七で嫌いが無い。全般を通じて嫌いな学科よりも好きな学科が多いことは嬉しいこと、それだけ講義に適應しているものが多いことを示している。

また一般教育科目は全科に共通であるから受講者が多く、したがって好きも嫌いも多いが、専門科目は受講者がその科に限られている場合が多いので、好きも嫌いも少くなる。それ故、単なる頻数による比較はできないし、%を出すには選択科目があるため受講者数が判明しない。

いので不可能である。ただ何らかの参考になり、また反省や自覚の資料となれば幸いである。

(六) 愛 唱 歌

愛唱歌は趣味のうちに包含してもよいと思ったが、これにはまた特殊の意味があり、青春の感情や愛情を歌ったもの、人気歌手などの歌う流行歌などが若い女子大生にどのような影響を与えているかを知るために、特に別項としたのである。したがって科別や学年別に拘泥することなく、日頃愛唱している歌を五つ以内書かせ、全科、全学年を一括して頻数の順に列べた。回答された歌の数は二四八種であったが、そのうち三名以上が挙げた歌は四六種で第二九表の通りである。第一位は、若者たちで七二名、二位以下は急に落ちて、赤とんぼ二五名、ともしび一五名、ポピュラ一五、学生時代一三、忘れな草一二と続く。若者たち、学生時代はともかく、忘れな草をあなたに一二、世界は二人のために一〇、黒い瞳一〇、恋の季節一〇、愛の結晶四、年上の女三など愛情を歌ったものも多いが、赤とんぼ二五、ともしび一五お母さんの歌一一、ふるさと一一、童謡九、荒城の月八、叱られて七、浜千鳥六、野ばら五、やしの実五、など古い名曲やなつかしい歌も多く、学生らしさがよくあらわれている。しかし全体としてはセンチメンタルな哀調をおびたものが多いようである。

(七) 思 想

思想については、学生自身の思想と、家族の思想とを別に調査したが、一覽表は両者をまとめて第三〇表とした。回答した

第30表 学生及び家族の思想

思想	家族				
	学生	父	母	兄	姉
保守	178	273	267	70	71
社会	26	62	57	35	21
民主	7	7	8	2	2
公共	2	1	5	2	1
無所属	1	—	1	—	—
わからない	183	43	42	32	37
	33	—	1	6	2
計	430	386	381	147	134

者があるが、この場合の無答は革新系であることを隠蔽するというようなものではなく、むしろ、わからないから回答しなかったと解する方が正しいようである。したがって、これを前者に合せた二四六名（五二％）は今後の指導によって容易に保守にも革新にもなり得る純情素朴な存在である。

(ハ) 家族の思想

家族の思想については父母と兄姉の思想を調査した。結果は第三〇表の通りである。父母、兄姉ともに保守が多いが、革新系は学生より遙かに多く、父母はともに約一八％、兄は二六％、姉は一八％である。無所属については、父母は学生の四分の一以下、兄姉は回答者の約二分の一、わからない、は父には一名もなく、母は一、兄六、姉二

学生は四六〇名中四三〇名であるから三〇名は答えていない。回答者の中では保守が一七八名で、約四〇％を占め、革新系は、社会三名、民社七、公明二、共座一で、計三六名（八％）無所属は一八三名、これに、わからない、の三三名を加えた二一六名は、まだ思想が固まっていないことを示すもので、全体の四五％にあたっている。なおこの外に、三〇名（七％）の無答

で非常に少い。それだけ思想が固まっていることを示している。公明党は、学生二、父一、母五、兄二、姉一で、社会、民主について三位を占め、特に母の五名が注目される。共産党は学生一、母一で非常に少い。

(九) 家庭の職業 (十) 家庭の宗教

(九)家庭の職業と、(十)家庭の宗教については最初に被験者を明らかにするため、前者は第二表、後者は第三表で述べたので、ここでは省略する。

(ニ) 友だちとの話題

友だちとの話題は、学生たちの関心が日常如何なる方面に向っているかを知るために調査したもので、予め学生たちの会話を観察し、一五項目の話題を掲げて、会話の回数と、それに要した時間の多い順に列べさせた。結果は第三一表の通りで、人生観に関する話が最も多く結婚や異性についての話がこれに次いで二、三位を占め、家庭や家族については第四位、学園や先生の話は五位、テレビが六位で、勉強が七位、書物について、が九位、最も関心の薄いのがラジオになっている。人生観は一位になっているが、別に哲学的な深い意味をもったものではなく、女性の運命とか、青春期の悩みのようなものが主である。被験者は一九才または二〇才のものが大部分を占め、殊に二年生は卒業を目前にひかえているので、良縁があれば何時でも結婚できる状態にあるし、現に家庭においてそのような話を耳にすることもあって、自然にこの方面のことが話題になるものと思われる。学生でありながら学園や先生、勉強、書物などの順位が低いのは、この方面については、教室や図書館で十分飽和しており、せめて休みの時間や学園

第31表 友人との話題

科、学年 友人との 話題	保育		初教		国文		平均 順位
	1	2	1	2	1	2	
人 生 観	1	3	2	1	1	1	1
結 婚 性	3	1	3	1	2	3	2
異 性 家	2	2	1	2	4	5	3
家庭、家族	4	4	4	3	6	4	4
学園、先生	5	8	5	7	3	7	5
テ レ ビ 強	8	5	6	4	5	9	6
勉 力	6	9	6	6	7	6	7
う わ さ 話	7	6	8	8	11	10	8
書 物 聞 誌	10	11	9	11	8	2	9
新 聞	12	7	10	5	10	8	10
雑 誌	11	10	12	9	9	11	11
ク ラ ブ 活 動	9	13	10	12	12	13	12
芸 能 人 才	13	12	13	15	13	14	13
ラ ジ オ	14	14	14	14	15	12	14
そ の 他	15	15	15	13	14	15	15

の往復には、これらに関係のない雑談を楽しむからであろう。しかし試験前などになると、列車の中でも、バスの中でもテキストやノートをひもとき、話題も全くこれに集中してしまうのである。

科及び学年の差もかなり著しいものがあり、新聞については一年生より二年生の関心が深く、初等教育科二年の五位が目をはく、書物については国文科の関心が最も深く、国文二年はこれを二位においており、学園や先生についても国文一年の三位が注目される。また二年生には結婚の話が多く、保育科二年及び初等教育科二年は、ともにこれを一位においている。新聞、雑誌などは男子ほど熱心に読まないもので一〇位と一一位を占め、時局に対する認識も比較的低く、学園紛争などについても、ほとんど対岸の火災視している状態である。

「その他」は一五位となったが、その中には就職についての話や教育実習中の話が二年生に多く、流石に卒業の近きを思わせるものがある。

る。

四、結語、女子短大生の教育

以上において当短期大学生の実態をほぼ明らかにしたのであるが、青年期女子の特色が顕著にあらわれており、結婚及び異性に対する関心は深い。

かつて、ビューラー夫人 (Butler, ch.) は女子に三つの型があるといった。第一の型は結婚を第一に考える女子である。青年期に入ると急に恋愛とか、結婚とか、育児とかいう問題に心意を集中し、それ以外のことはどうでもよいことになって、異性愛と孤独感が彼の女のすべてとなる。母性の使命を果たすためには、どうしても一人の異性を獲得しなければならぬからである。かくして知性は後退し、実際的な事柄だけが強く意識される。第二の型は結婚を理想とするが、現代においては、それが難かしいので、まず職業を得て自活の方途を講じようとするものである。こうした二つの途を見つめねばならないところに現代女性の悩みがあり、男子の知らぬ矛盾がある。勿論学問や芸術の途にはいく女性もあるが、それでもなお一方の目は絶えず結婚の方に向けられ、微かな望みをいだいて努力しているのである。第三の型は結婚を無視する女子である。この型の女性は男子に隷属することを嫌い、男子から独立してこれに対抗するために、あえて職業を求めるのであるが、このような女性は非常に少い、といっている。

しかし今日では、さらに、これに第四の型を加える必要がある。それは第二の型の変形で、結婚を理想とするが、若い男子の収入だけでは生活が困難であるから、まず就職し、当分は共稼をして結婚しようとしてる女性である。

本学の学生には、まだ第一の型は顕著でない。恋愛や結婚のことに

心意を集中して学業をおろそかにするような学生がいなかったからである。そして多くは第二の型に属するようである。即ちまず就職して、それから結婚しようと思っている。第三の型もほとんど見当たらない。それは四年制の大学に進学しようとする学生がいなかったことである。第四の型は若干見られる。第九表、理想の男性その五、「月収」において、最低二万円以上二名、二・五万円以上二名は、明らかに共稼の覚悟をしているものと思う。最低三万円以上は八八名あるが、これも結局、共稼しなければならぬことになるであろう。しかし平均は四・四一万円であるから全体的傾向は、共稼をしない第二型であるといえる。

本学は宮崎市を中心として県下全域にわたる約九〇%の学生と、九州、まれには中国四国からも集ってきた約一〇%の学生よりなり、家庭は公務員を主とするサラリーマンと、比較的裕福な農家が大部分を占め、宗教は仏教が主で、神道がこれに次いでいるが、無宗教と思われるものが三一%もあり、少数の新興宗教を除いては、あまり熱心な信者ではなく、きわめて楽天的、現実的な家庭のようである。

学園は宮崎市郊外、清武町の海拔五六米の丘上にあり、名づけて忍ぶが丘という。郷土の偉人安井息軒先生の生誕地に近く、周囲は樹林に囲まれ、屋上からの眺望は、北に宮崎市街、東は太平洋、西に霧島南に双石、鰐塚の連山を望み、眼下には清武川をはさんで清武の街波と清武平野の田園風景が展開している。都塵をはなれ、騒音にわずらわされず、校庭には四季折々の花が咲き、小鳥の歌をききながら学園の花園を散歩する女子大生の姿には、えもいわれぬものがある。

講義は騒音にさまたげられないので、静かに進み、放課後は各クラブが一斉に活躍する。五〇台のピアノは防音装置ができていたので、あまりきこえないが、器楽部のギター、箏曲部の琴、日本舞踊のレコ

ードなどが聞え、五時過ぎの列車やバスで学生が帰途についた後は、一二〇余名の寮生の天下となる。

学生の年令は十八、九才から二十一、二才頃まで、青春の希望に胸をふくらませ、よく話し、よく笑う。それぞれ理想の男性を心に描き卒業後の就職と、良き結婚を夢見ていることは本調査において明かにしたところである。この純情、素朴で、けがれを知らぬ天使のような若い女性を、そのまま伸ばし、その美しい夢を現実にして、幸福な家庭をつくらせるために、本学では特に情操教育に意を用いている。これについては、国文学、音楽、美術、造形、園芸などは優秀な教授陣容と、充実した図書館その他の設備でよくその使命を果たしている。また礼法を重んじ、校庭の最も眺望のよいところに、純日本風の礼法教室明教庵を建て、中には洋室も設けて、和洋両様の礼法教育を全学生に一年間必修として課している。しかし決して知的啓蒙をゆるがせにするものではなく、一般教育科目はもとより、各専門科目にはそれぞれ優秀な教授陣を配して実力の養成に余念がない。しかし純情と素朴は一面において男性の誘惑にかかりやすい弱点もあるので、男女の交際については特に注意し、些細なことでも直ちに父兄に連絡して、その注意を喚起し、おだやかな個別指導を怠っていない。

思想問題については、家庭の思想が一般に保守的で、革新型は一八%前後に過ぎない。したがって学生の思想も保守が多いが、約半数は無所属またはわからないのが実情であるから折にふれて健全な思想の養成、足の地についた実行可能な政治教育、現在の日本を支え、民族の興隆と発展に貢献するような思想を植えつけ、将来自分の子供たちに幼い時から母乳とともにこれを与えて、徒らに新奇を追うて、これに付和雷同したり、一部過激分子の煽動にまよわされて軽率盲動することのないような子供を育て得る健康にして、明るい母性の養成に努め

ているのである。

本学は創立以来第五年目を迎え、既に三回の卒業生を送り出したがこれらの卒業生に実社会を体験させるため、就職についても万善の手配をし、できる限り第一志望をかなえさせるよう努力している。幸い各方面の協力を得て、就職希望者の大部分がその目的を達成して、幼児教育や小中学校教育に従事することができ、また公務員、会社員、銀行員などとして各方面に進出しているが、地方特有の素朴と純情に加えて、在学時代の礼法教育や奉仕の教育が漸く社会の認めるところとなり、各職場で好評を得ていることは嬉しい限りである。

本学は現在、保育科、国文科、初等教育科の三科であるが、昭和四五年度からはさらに音楽科を増設する計画で、目下着々準備を進めている。認可の上はピアノは一〇〇台に達し、さらに管絃楽器、打楽器などもそろえ、本学の教育はもとより、広く、県下乃至近隣諸県の音楽教育や情操教育の上に大いに貢献をするのができれば幸いであると思っている。

本論文の作成に当り、山口助教授の御援助に対し、深く感謝の意を表します。